

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第二輯）
14

廣西師範大學出版社

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第二輯）14

廣西師範大學出版社

· 桂林 ·

目 录

农副产品收集预测调查报告（纸浆原料）

满铁产业部

一九三六年十二月……………一

大豆秆收集情况调查报告（纸浆原料）

满铁产业部

一九三七年一月……………二五

大豆秆收集情况调查报告

满铁产业部

一九三七年一月……………六六

日本出口补偿制度和德国对华特殊贸易政策的调查

满铁产业部

一九三七年四月……………七九

对于中国食品问题的新考察

满铁天津事务所调查课

一九三七年六月……………四三八

目 録

農業副産物蒐集豫察調査報告（パルプ原料トシテ）

滿鐵産業部

昭和十一年十二月……………一

大豆稽蒐集調査報告（パルプ原料トシテ）

滿鐵産業部

昭和十二年一月……………二五

大豆稗蒐集調査報告

滿鐵産業部

昭和十二年一月……………六六

日本ニ於ケル輸出補償制度ト支那ニ於ケル獨逸商品進出ニ對スル獨逸ノ

特殊貿易政策ノ調査

滿鐵産業部

昭和十二年四月……………七九

支那ノ食料問題ニ對スル新考察

滿鐵天津事務所調査課

昭和十二年六月………

四三八

保紙	256
産農調	4
丁資分	880.1
印	40

昭和十一年十二月

農業副産物蒐集豫察調査報告
（バルブ原料トシテ）

満鉄産業部

目次

前言 二

一、紫火市 二

二、紫火市へノ出廻範圍 五

三、紫火院子 七

四、都市ニ於ケル需要及農村ノ供給狀況 一〇

五、取引價格 一一

六、各都市ニ於ケル出廻可能數量及其價格 一五

七、結 語 二三

昭和十一年十二月

産業部農林課調査係
入江久夫

農業副産物蒐集豫察調査報告
一バルプ原料トシテ

緒言

バルプ原料トシテノ農業副産物ハ高粱、玉蜀黍、大豆、藁等ノ莖桿類ノ出廻時期ニ當ル十一月二十五日より十二月三日ニ至ル期間ニ於ケル、主トシテ滿鐵本線ノ主要地點タル蘇家屯一此ノ地ハ臨時經濟調查會編纂料第二十二編高粱桿蒐集調査報告書ニ高粱桿ノ蒐集可能數量多量ナルヲ記載サレタルニヨリ附加ス一奉天、開原、四平街、公主嶺、新京、哈爾濱及海倫ニテ行ヒタル蒐集豫察調査ヲ基ニシテ、調査經過各地ニ於ケル蒐集可能數量竝其ノ價格ニツキテ茲ニ報告セムトスルモノデアル

一紫火市

副産物ノ蒐集可能數量及其ノ價格ノ調査竝其ノ推定ハ現在ノ聚集數量竝其ノ價格ヲ知ルコトカ先ツ要求セラレルモノト考ヘラレルニヨリ其ノ前提トシテノ各都市ノ取引事情ヲ先ツ述ヘル必要ヲ感スル。而シテ

各都市共之等副産物ハ主トシテ一般市民ノ燃料ニ供セラレ、其ノ取引ハ特定ノ場所タル常設ノ紫火市（燃料市場）ニ於テ行ハレル故ニ各都市ノ取引事情ハ紫火市事情ヲ記述スルコトニヨリテ知ラレル。

今各都市ニ於ケル紫火市ノ所在地及其ノ出廻地方ヲ左ニ示ス。

都市名	市場地點	出廻地方	出廻品目
奉天	大南門外	南方四十里（約二六軒）以內	高粱桿、大豆桿
	大北門外	北方四十里以內	高粱、大豆、樺木
開原	市場會社院子	西方四十里以內（東方ヨリハ雜木來ル）	高粱、糧草（粟）、 （木材、木炭、紫枝、薪）
四平街	小東門外	主トシテ東方、三十里以內	粟、高粱（少枝条子） 樹枝子）
公主嶺	河北	主トシテ東方、二十里以內	高粱（少枝条子）
河南	南	主トシテ南方、二十里以內	高粱、粟（少枝条子）
新京	三不宮	主トシテ北方、四十里以內	粟、高粱（少枝条子）
	孟家溝（頭道溝）	主トシテ西方、三十里以內	粟、高粱（少枝条子）

蘇家屯 滿人街	海倫	哈爾濱 太古街	東大橋	南關大橋	東盛路
四方、二十里以內	主トシテ西方、二十里以內	四方、三十里以內	東方、二十里以內	東南、三十里以內	東方、四十里以內
高粱、谷子、粟	茅草、包米、大豆 (一柳条)	高粱、粟、茅草 (蓬子) (茅草) (一柳条)	谷子、高粱	谷子、高粱	子 (蓬子)

以上各地ノ紫火市ハ奉天、開原、四平街、海倫ヲ除イテハ他ノ農產物
 蔬菜、雜貨ト共ニ街路上ニテ開カレ、而シテ又紫火市トシテノ特定ノ
 廣場ヲ有スルハ奉天、開原、四平街ニ過キス、特ニ開原ニ於テハ市場
 會社ノ統制ノモトニ大正九年ヨリ一車當リ高粱二十錢、粟三十錢、大
 豆二十錢、小枝子三十錢、薪三十錢ノ手數量ヲ徵收シテ販賣セシメテ
 居ル。

二、柴火市へノ出廻範圍

柴火市ニ出廻ル農業副產物ノ搬出ハ主トシテ農民自身ノ馬ト馬車ニヨリテ行ハレ、農民ニシテ他人ノ生産物ヲ買付ケテ販賣ニ來市シタルモノハ新京ニテ一車ヲ見タニ過キス何レモ早朝出發シテ五時半ヨリ七時頃迄ニ市場ニ到リシ、一般市民ノ買出ニ來ルヲ待チ直接取引ヲナシ、大體正午頃ニハ取引ハ完了シ、農民ハ必要ナル物資ヲ購入シテ歸村ス購入スル物資ハ現地ニ於テ調査シタ結果ニヨレハ豚ノ飼料、豆餅、綿布、其ノ他雜貨テアツタ。即チ柴火市ニ來市スル農民ハ、副產物ノ販賣ト物資購入ノ二ツノ目的ヲ有スルモノテアルト謂フコトカ出來ル。從テ柴火市ニ來集スル農民ノ部落ハ直接都市經濟ニ結び付ク範圍ニアル部落テアル

現地調査ニヨレハ柴火市へノ來集農民ノ部落ハ道路ノ良否其ノ他ノ事情ニヨリテ差ハアルカニ〇里乃至四〇里ヲ限界トシ、即チ約一三乃至二五軒ヲ半徑トスル圓周内ニ屬シ、而モ各地ノ出廻數量ヲ平均シテ約三〇里即チ二〇軒半徑ノ圓周カ最も多ク來市スル限界ヲナシテ居ル。

即ち都市ヲ中心トスル半徑二〇軒ノ圓周ニヨリテ劃サレル、都市ノ第一次的背後地カ主トシテ副産物ヲ販出スル地域テアルト謂フコトカ出來ル。四平街ニ於テ六〇里即ち四〇軒ノ遠隔地ヨリ來市シタ一車ヲ發見シタカ之ハ四平街ニ親戚ヲ有スル者テアリ前日到着シテ親戚ニ一泊シテ早朝賣却後直チニ歸村スルモノテ特殊條件ノ下ニアル者テ聞正シテ見ルニ同村人ニシテ來市スル者ハナシトノコトテアル。

二〇軒カ限界ヲナス理由ハ早朝部落ヲ出發シ、販賣シ、買物ヲ済マセテ歸村スルニ適當ノ距離テアリ、之以上ノ距離ノ場合ハ一日ニ一往復スルコトハ不可能テアル。現在來市ノ馬車ハ馬二乃至三頭曳テアルカニ〇軒以上ニナレハ馬數三頭以上ヲ要シ、一泊スルニツイテ馬一頭ニツキニ〇錢トシ三頭ト見テ六〇錢人ノ宿泊料四〇錢ト計算シテモ一泊スルコトニ依テ最少限一圓ノ經費ヲ要スルコトニナル。高粱桿、豆楷副産物ハ所ニヨリテ多少ノ差ハアルカ一車三圓前後テアルカ、部落内ニ於テ賣買スル價格ハ二圓前後テアリ、歸リ荷タル買物ヲ考慮ニ入レサル場合ニハ運賃トシテ一車一圓トナリ、一泊スルコトニヨリ運賃ヲ

失フコトニナル。即チ價格ノ低廉ナル副產物ニアツテハ、穀物ノ出廻距離ノ半分ノ二〇糎トナツタ理由テアリ、現在ノ市價ニテハ二〇糎以上ノ遠隔地ヨリ求ムルコトヲ不可能ナラシメタ原因ヲナス。

半徑二〇糎ノ圓周カ出廻ノ限界ヲナスハ前述ノ如テアルカ、此ノ範圍内ニ於テモ後述ノ如ク時期ニヨル價格ノ差カアル關係上部市附近ノモノハ道上リヲ待ツテ夏季出廻リ、遠隔地ニナルト共ニ價格ニ關係ナク冬期ニ出廻ル傾向カ認メラレル。

三、柴火院子

副產物販賣機關トシテ柴火市以外ニ春夭、哈爾濱ニ見ラレル柴火院子カアル。然シ名稱ハ同一ノ柴火院子テアルカ春夭ニ於ケルモノト哈爾濱ニ於ケルモノハ各其ノ機能ヲ異ニスル。

春夭ニアツタハ農民ハ冬期副產物、主トシテ高粱桿ヲ待チ來リ此ノ柴火院子ニ保管ヲ依頼シ、期間ノ長短ニ無關係ニ保管數量ノ一割乃至六分ヲ保管料トシテ支拂ヒ、隨時來リテ馬車ニ積ミ接近スル柴火市ニテ農民自分販賣スルモノテアル。此ノ場合ノ農民ノ部落ノ距離ハ最遠約

四〇里即チ二五軒前後テアツテ、直接柴火市ニ販出スル場合ヨリ多少
遠距離ニアルト思ハレル。現在柴火市ニ於ケル賣レ殘リカ此處ニ來ル
コトナキニヨリ經營面積ノ大ナル餘剩燃料ノ多キ者、夏期道路惡ク搬
出ニ困難ヲ感スル者及夏期ノ直上リヲ待ツ餘裕アル者等ノ此ノ機關ヲ
利用スルト思考セラレル。最近迄此ノ柴火院子カ大東邊門外ト大東邊
門外ニ各一軒アツタカ、大東邊門外ノモノハ本年ノ夏用火シ現在迄行
方不明デアツタ。

柴火院子テハナイカ同様ニ副産物ノ販賣機關ニ柴火販ト稱スル仲買人
カアリ、冬期是村ニテ買集メタ副産物ヲ夏期院子ニ積ミテ販賣スルモ
ノデアリ、主トシテ高粱ノ夏期ニ於ケル一車當リ五〇錢乃至一圓ノ直
上ヲ得ツモノデアリ、冬期ハ買入時期テ、夏期カ販賣時期テ、而モ毎
年一定ノ者カ此ノ商賣ヲ行フモノテナク、其ノ改ハ不明テアルカ、昨
年ノ大北邊門外ニ三軒アツタト謂フコトテアル。

居天ノ柴火院子カ一種ノ倉庫業テアルニ對シ、哈爾濱ノモノハ仲買業
及代理業テアル、現在寶興街ニ仲買業三軒、代賣業一軒、十六道街頭

道ニ仲買業ニ軒カアル。一軒ノ代理業ハ最近迄賣藥業ニ從事シタカ不振ノ爲轉業シタ者テ夫レ以前ニハ代理業者ハ十カツタトノコトテアル故ニ本年ノ取引機關ハ仲買業テアツタ。代理業者ハ農民ノ待參セル副産物ヲ寄托セラシ、高粱（御條）（茅草）等一〇〇束ヲ販賣スルコトニヨツテ五〇錢ノ手数料ヲ數收スルモノテアル。茲ニ仲買業ト稱スルハ農民ノ待參スル副産物其ノ也ノ然科ヲ買收シテ院子ニ山積シテ一般市民其ノ也ノ買出シヲ待ツモノテアリ、買收價格ト販賣價格ノ値開キト、價格ノ時期的變化ニヨリテ成立スルモノテアル。

哈爾濱ニ於テハ此ノ代賣業者ト仲買業者ノ家ヲ柴火（草）院子ト總稱シテ居ルカ、之等ニ對スル出廻地域ハ冬天ニ於ケル夫レトハ異ルモノカアル。冬期ニ於テハ三〇支里即チ二〇軒半徑以内ノ農村（四方里方裏附近ノモノ多シ）ヨリ買出セラレ、夏期ハ呼蘭河上流六〇里ノ菜園子、一〇〇里上流ノ綽馬等ヨリ河船ニ積載サレテ來集スル故ニ、冬ハ二〇軒以内、夏ハ河筋ニ於テハ六四軒附近迄出廻リ範圍ニ含マレル。又呼蘭ニモ哈爾濱ニ於ケルト同様ニ柴火院子カアリ、夏期ハ哈爾濱ニ來リテ直接市民トノ取引ヲ行フ。

四、都市ニ於ケル需要及農村ノ供給狀況

柴火市、梨花院子及柴火販ニ於テ取扱ハレル品目中パルプ原料トシテ一應考ヘラルヘキハ高粱、包米、粟、大豆ノ莖桿等ノ農業副産物、葦茅草、蓬子、柳条、萩等ノ野生ノ草木テアル、此ノ中票桿ハ一車（一千斤）十三圓以上十七圓位ニテ、家畜ノ飼料トシテ使用セラレ、採算上パルプ原料トナリ難イカ、高粱、大豆、包米（家畜飼料トニ供セラレ出廻少シ）ノ桿ハ殆ト同價ニテ一車（七一八〇〇斤）三圓前後テアル、又一應當リ六圓五十錢餘トナル。之ヲ燃料トスル場合ニハ熱量ニ於テ石炭ノ三分ノ一ト見テ（臨時經濟調査委員會資料二十一編、滿蒙ニ於ケル工業用家畜用燃料需要調査報告書ニヨル）、石炭一噸ノ價格各地平均十五圓ト既算シテモ、石炭一噸ノ熱量ヲ出ス爲ニハ三噸即チ十九圓五十錢トナリ、約四圓五十錢ノ開キカアルタメ都市ノ工業燃料ハ勿論、一般市民ノ燃料モ石炭ニ直換サレツツアルト見ラレル然シ高粱桿ヲ測ニトルモ、昭和三年中ノ調査（臨時經濟調査委員會、資料二十二編、高粱桿蒐集調査報告書ニヨル）當時ヨリモ一般ニ其ノ